

目指す拠点の姿、評価の視点、役割分担等

項目	目指す拠点の姿	評価の視点	平成20年度行動計画・達成目標	平成20年度行動計画・達成目標	
	○：全拠点共通／☆：どろっぶ独自		(法人の役割)	(行政の役割)	
親子の居場所	○利用する人を温かく迎入れる雰囲気がある。	○利用する人を迎入れるための配慮、工夫をしているか。 ○利用者の間に交流しやすい雰囲気ができているか。	○初めて利用する人には丁寧に趣旨説明、オリエンテーションを行う。 ○初めて利用する人への声かけを積極的に行う。 ○初めて利用する人とそうでない人が、利用者同士で分かるような仕掛けをしている。 ○利用者間の交流を促すための企画を月1回程度行う。	○新規転入者、第1子の親などの来庁時(妊娠届、転入届時等)等に、拠点を積極的に紹介する。 ○必要に応じて、交流企画への協力を行う。	
	○世代、性別等を超え多様な養育者と子どもが訪れる場所になっている。	○多様な養育者と子どもを受け入れる配慮、工夫をしているか。 ○父親、祖父母等の利用があるか。	○ひろばが親子で過ごすだけでなく、妊婦、多胎児、外国人籍、シッターなど多様な養育者及び子どもの利用のきっかけとなる参加型講座、交流イベントを行う ○父親同士の交流を深める機会を提供する。 ○父親利用のキャンペーンを、atどろっぶを活用して行う。	○多様な養育者及び子どもの受け入れに関する助言、協力をする。 ○多様な養育者及び子どもへ、拠点利用について紹介する。	
	○子どもにとって安全な環境(防災・防犯・衛生・事故防止)が確保されている。	○リスクを減らし、安全性を確保する取り組みがされているか。 ○事故や災害発生時の対応についてルールづくり、訓練がされているか。 ○衛生管理が適切に行われているか。	○月1回、スタッフ全員による安全チェック会議を行う。 ○事故対応マニュアルを作成する。 ○事故事例はスタッフ間で共有する。 ○衛生管理講習を行う。(スタッフ向け) ○防災・防犯講習を行う。(スタッフ向け) ○避難訓練を行う。(利用者及びスタッフ向け) ○施設自体の防災計画書を作成し、届出施設となる	○定期的な実施状況の確認と、改善等について拠点と共に検討し、サポートをする。 ○衛生管理講習への講師派遣の相談に応じ協力をする。 ○必要に応じ、消防、警察等への協力依頼をする。 ○緊急警戒情報等について、入手した情報を拠点へ提供する。 ○事故発生時等への対応を拠点と連携して行う。	
	○親(保護者)がくつろいで過ごせる環境が確保されている。	○大人が過ごす空間への配慮がされているか。	○喫茶コーナー等のくつろげる環境を整備する。 ○親向けの雑誌、図書を充実する。 ○親の作品展示など大人のための空間を充実する。 ○親同士の情報交換ツールを生み出す	○定期的な実施状況の確認と、改善等について拠点と共に検討し、サポートをする。	
	○子育て支援ニーズ把握の場になっている。	○ニーズを把握するための工夫、仕組みがあるか。 ○把握されたニーズが共有され、解決につながっているか。	○統計を基に、利用者傾向の分析をする。 ○利用者の声、ニーズを把握する仕組み(アンケート、意見箱等)をつくる。 ○月1回、スタッフ会議でニーズを共有する。	○利用者傾向、把握ニーズを拠点と共有する。	
	○親(保護者)自身が親として育ち、また子どもが育つ場となっている。	○子どもの年齢、月齢に応じた遊びの環境が整備されているか。 ○子ども同士のかかわりを尊重したスタッフのかかわりができているか。 ○親自身の学びの場になっているか。	○年齢、月齢に応じた遊びの環境を設定する。 ○スタッフが、子ども同士の関係づくりを意識を創出する。 ○講座、講習、勉強会などの機会を提供する。	○定期的な実施状況の確認と、改善等について拠点と共に検討し、サポートをする。 ○講座等の講師協力(紹介、派遣等)や情報提供を行う。 ○乳幼児健診等のセンター事業の中で把握した子育てニーズを講座等の企画に情報提供する。	
	○親同士がささあう状況ができている。	○利用者の間に交流しやすい雰囲気ができているか。 ○利用者同士が相談、情報交換し、課題解決しあう仕組みや仕掛けがあるか。	○利用者間の交流を促すための企画を月1回程度行う。 ○スタッフが仲介し、共通課題をもった利用者同士を結びつける工夫をする。	○必要に応じて、交流企画への協力を行う。	
	☆居場所企画運営に利用者が積極的に参画している。	○利用者が居場所企画運営に参画する仕組みや仕掛けがあるか。 ○さまざまな参画者が、各々の得意分野を生かしているか。	○利用者による居場所運営意見交換会を開催する。 ○利用者が子どもを連れてボランティアとして活躍できる役割を提供する。 ○利用者が参加しやすい雰囲気をつくる。	○意見交換会の内容を共有し、必要に応じ対応策について拠点と共に検討し、対応をサポートする。	
	☆居場所企画運営に地域のボランティアが積極的に参画している。	○ボランティアの受け入れを行っているか。 ○ボランティアが居場所企画運営に参画する仕組みや仕掛けがあるか。 ○ボランティアが、各々の得意分野を生かしているか。 ○ボランティア数が増えているか。	○多様なボランティアを受け入れる。 ○ボランティアの存在と、募集について利用者へ周知する。 ○ボランティアによる居場所運営意見交換会を開催する。 ○ボランティアの日々の活動状況把握とフォローを行う。 ○ボランティアを中心に、イベントを企画実施する。	○ボランティア募集への協力をする。 ○意見交換会の内容を共有し、必要に応じ対応策について拠点と共に検討し、対応をサポートする。	
	子育て相談	○気軽に育児に関する相談ができる場となっている。	○相談者とスタッフとの間に安心して相談してもらえる信頼関係ができているか。 ○どのような相談に対しても傾聴し、相手に寄り添う相談対応ができているか。 ○一定の相談実績があり、内容の傾向を把握し、対応が検討されているか。	○相談体制づくり(居場所での相談、専門相談)をする。 ○傾聴を心がけて相談対応する。 ○相談に当たるスタッフのサポート体制づくり(スーパーバイズ、研修)をする。 ○曜日により、相談スタッフ、相談内容を設定し、利用者に分かりやすく提示する。 ○利用者のニーズに沿ったテーマについての相談日を設定する。 ○相談担当が加わり、気軽に参加できるグループ相談を行う。 ○グループ相談をきっかけとして、共通のテーマを持つ自主グループの支援を行う。 ○相談内容の傾向を把握し、対応について振り返り、スタッフ間で共有する。	○相談ニーズに関する助言をする。 ○相談体制に関する助言や協力をする。 ○相談スタッフへの研修や事例検討会に関する助言、協力をする。 ○課題別相談事業に関する企画や内容への助言をする。 ○拠点での相談実施について区民に周知、紹介する。
○発達、不適切な養育など専門的対応を要する相談を受け止め、関係機関に結びつけられている。また必要に応じて継続したフォローができている。		○福祉保健センター等関係専門機関との連携、連絡体制ができているか。 ○相談内容に応じて、専門的対応の必要性についてアセスメントできているか。 ○専門機関へつなげるための必要な対応ができ、また継続したフォローができているか。 ○専門機関との連携ケースに対応した実績があるか。	○相談者に、必要に応じて他の相談機関の情報を提供する。 ○相談内容をリストにまとめ(個人が特定されない情報として)、月1回区に提出する。 ○相談に当たるスタッフのサポート体制づくり(スーパーバイズ、研修)をする。 ○必要に応じて、福祉保健センターに個別相談の状況報告を行い、またケースの状況に応じたカンファレンス、担当保健師へのつなぎを行う。 ○相談事例について拠点スタッフ及び区スタッフの担当者会議を行う。	○他の相談機関に関する情報を拠点に提供する。 ○相談内容リストにより、拠点での相談内容、傾向について共有する。 ○相談スタッフへの研修や事例検討会に関する助言、協力をする。 ○必要に応じ、状況報告受理、カンファレンス、担当保健師への引継ぎに対応する。 ○相談事例について拠点スタッフ及び区スタッフの担当者会議を行う。 ○拠点からの引継ぎケースについて、結果をフィードバックし、必要に応じて連携対応する。	
○プライバシーに配慮した相談環境、対応が確保されている。		○プライバシーを守れる相談環境があるか。 ○スタッフが守秘義務を遵守しているか。 ○記録等の個人情報が保護されているか。	○相談室環境を整備する。 ○個人情報保護(記録・引継ぎに関する同意、相談記録の管理)を徹底する。	○定期的な実施状況の確認と、改善等について拠点と共に検討し、サポートをする。	
情報収集・提供		○来所が困難な方も含めて、必要な情報を容易に入手できるようになっている。	○ニーズにあった情報が提供できているか。 ○さまざまな媒体を活用した情報発信ができているか。 ○拠点以外の場を通じて情報発信をしているか。 ○利用者が、必要な情報を容易に選出することができるか。 ○さまざまな子育て情報が拠点で入手できることが、区民に認知されているか。	○幼稚園・保育園・学校・育児サークル・子育てサロンなどの他機関に関する情報を整備する。 ○地域の子育て支援関係者が必要とする情報を整備する。 ○利用しやすい情報発信の方法を検討(紙・IT媒体)する。 ○情報整理の体系、ルールづくりをする。(ライフステージ別など) ○拠点自体の周知を図るため情報発信する(拠点のパンフレット、広報紙atどろっぶをつくる)。 ○拠点ホームページのアクセス数を増やす、と共にコンテンツ充実を図る ○地域ケアプラザ、地区センターなど身近な場で情報発信できる方法について検討する。	○初めて利用する人(又は新規転入者、第1子の親など)向けに拠点の情報提供する。 ○地区の子育て情報等も含め、区が把握している子育て関連情報を拠点へ提供する。 ○拠点以外の場における情報提供について、関係機関等へ協力依頼する。 ○情報提供、整理方法等に関する助言をする。 ○拠点自体の周知についてパンフレット等の配布協力、区広報への掲載、関係機関の会議の場等での周知等を行う。
	○地域における子育ての情報が収集され、入手できるようになっている。	○地域における子育て情報の収集をする仕組みがあるか。 ○区内の幅広い地域の子育て情報が集まっているか。	○地域別の情報を収集する。 ○地域の子育て支援関係者が、拠点を通じて気軽に地域情報を提供できる仕組みをつくる。 ○地域から得た情報を行政と共有する。 ○子育て応援メールマガジン「ココめ〜」の編集を行う ○ココめ〜編集委員会を運営する ○収集した情報をココめ〜の記事に加工し、区の送付する	○地域情報の収集に関する助言、協力をする。 ○区が把握している情報を提供する。 ○子育て応援メールマガジン「ココめ〜」(配信事業のとりまとめを行う ○法人から送付されたココめ〜記事の配信を行う	
	○利用者自身が、拠点を通じて情報提供できている。	○利用者自身が、拠点を通じて情報提供できる仕組みや工夫があるか。 ○情報収集、提供の企画に利用者が参画する仕組みや工夫があるか。	○利用者間の情報交換を促す掲示板を設置する。 ○利用者の体験を生かした子育てを学ぶ情報発信に取り組む。	○情報提供に関する助言、協力をする。	
	☆情報収集、提供のしくみづくりに利用者が積極的に参画している。	○さまざまな参画者が、各々の得意分野を生かしているか。	○地域の子育て支援関係者が、拠点を通じて気軽に地域情報を提供できる仕組みをつくる。		
	ネットワーク	○地域の子育て支援活動を活性化するためのネットワークを構築・推進している。	○子育て家庭のニーズを踏まえたネットワークづくりがされているか。 ○地域の子育て支援関係者が、互いに知り合い、理解し、課題を共有するための場、機会、情報を提供できているか。 ○地域の子育て支援関係者が、協力しあう関係となるためのコーディネート、仕掛けができているか。 ○子育て支援の取り組みが地域全体へ広がっているか。	○当事者、地域の子育て支援関係者のニーズを把握する。 ○ネットワークの実態を把握し、ネットワーク推進の対象と方法を検討する。 ○地域の子育て支援関係者が交流できる場を設定する。 ○拠点において、地域の子育て支援活動を紹介する機会を設定する。 ○地域の子育て支援関係者の代表からなるネットワーク連絡会を開催する。 ○ネットワーク連絡会において、人材育成に係る研修の企画について意見をもらう。 ○拠点で把握された当事者ニーズや地域ニーズをネットワークを通じて報告、発信する。 ○ネットワーク推進において拠点が果たす役割を、ネットワークを通じて伝える。 ○区が主催するネットワーク会議に参画する。 ○わくわく子育てサポート事業を通じて地域のサロンとのネットワークを広げる。	○既存ネットワークと拠点が目指すネットワークとの関係整理をする。 ○拠点の対象としている年齢や地域の子育て支援の範囲に留まらない、区全体の子育てに関わる関係機関とのネットワーク連絡会を開催する。 ○わくわく子育てサポートと事業を通じて地域のサロンとのネットワークを広げる。
		○ネットワークを活かして、地域の情報収集・共有や、拠点利用者の地域へのつなぎができている。	○地域の情報収集・共有をする仕組みや工夫があるか。 ○拠点利用者を地域へつなげる仕組みや工夫があるか。	○拠点において、地域の活動を紹介する機会を設定する。	○拠点で地域の活動を紹介する際の協力をする。 ○地域との連携事業について区と共に具体的支援メニューを創出する ○ココメールの編集会議を通じて地域のネットワークを広げる
☆当事者間のネットワークを構築・推進し、当事者による子育て支援活動が行われている。 ☆利用者である当事者も、ネットワーク構築・推進に関わっている		○当事者が、互いに知り合い、理解し、課題を共有するための場、機会、情報を提供できているか。 ○当事者が、協力しあう関係となるためのコーディネート、仕掛けができているか。 ○拠点を越えて地域の活動をつなげていく仕組みができているか	○拠点利用者、親子サークル代表者等からなる当事者ネットワーク連絡会を開催する。 ○『どろっぶネットほいっぶ』による新たな支援メニューの広がりを作る	○当事者ネットワーク連絡会の開催及び推進に関して、必要に応じて関係機関、地域の関係者、組織等への調整を行う。	
人材育成	○地域の子育て支援活動を活性化するため、新たな子育て支援人材を育成している。	○子育て家庭のニーズを踏まえた人材育成がされているか。 ○活動等への適切なコーディネートができているか。 ○地域で子育て支援に関わる人が増えているか。 ○当事者が次代の支援者へと育っていく工夫がされているか。	○当事者、地域の子育て支援関係者のニーズを把握する。 ○人材育成の課題を把握し、ネットワーク連絡会で共有する。 ○ニーズ、課題に基づき、人材育成のプログラムをつくる。 ○ネットワークを活かした人材育成プログラムを実施する。	○人材育成のプログラムに関する助言、協力をする。 ○必要に応じて、人材育成研修実施に関する協力をする(講師派遣協力、参加希望者への周知、他機関との調整等)。 ○研修等既存の地域子育て支援人材や団体等の活用について検討し情報提供をする。 ○区のネットワークを活用して研修内容のすみわけと連携を図る	
	○子育て支援に関わっている人のスキル向上のため、区と区社協と連携している	○子育て家庭のニーズを踏まえたスキル向上が図られているか。 ○地域の子育て支援活動のレベルアップ、充実が図られたか。	○拠点の居場所等、実習場所等として活用する。 ○新たな人材育成の裾野を拡大するための研修を行う。 ○誰でも研修に参加しやすい環境づくり(保育体制の整備、開催周知方法の整備等)を行う。 ○子育て支援に関心のある学生たちが主体的に関わることのできる環境がある。 ○利用者が保育グループに参加し、支援者になっていく仕組みづくりを創る		
	その他		○区との連絡会を定期的に開催する。 ○拠点運営スタッフへの研修、スーパーバイズ等のサポート体制を整える。 ○他区との拠点とネットワークを形成し、モデル事例の提示を行う。 ○拠点の存在について、子育て家庭に周知を図る。	○拠点との連絡会を定期的に開催する。 ○拠点の存在と取り組みについて、子育て家庭のみならず広く区民に周知を図る。 ○区の子育ての現状を、子育て当事者以外の区民にも伝えていく。	